



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 26 No.2374

■2011～2012年度RIテーマ：

こころの中を見つめよう、 博愛を広げるために

2011～2012年度RI会長 カルヤン・バネルジー



新日地域交流施設
「和が舎」

画/百瀬達夫

■2011～2012年度士別RCテーマ：

人と人を思いやる 心をもって前進しよう

■例会場/士別グランドホテル

■例会日/毎週月曜日 12:10～13:10

■事務所/士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234

■会長/渡辺正一 ■副会長/藤吉敏博

■幹事/伊藤優市

今日のプログラム 第2456回例会 2012年2月20日(月)

■ 2月13日の記録 ■

- 司会 高山 稔 会場監督
- 斉唱 我等の生業
- 本日の出席 会員51名中 出席者42名 出席率82.35% 修正86.27%
- 本日の欠席 岡田 晃、國森和麿、黒田康敬、鈴木 勉、野 英俊、深尾幸夫、奈良康弘、山本 榮、今井 裕
- メイクアップ
- ビジター
- ニコニコBOX 菊地 博会員(第57回士別雪まつり終了御礼)
高山 稔会員(孫誕生)

累計257,000円

例 会 予 定

■2月の予定……………《世界理解月間》 ■3月の予定……………《識字率向上月間》

- 2月6日(月)/例会・理事会
- 2月13日(月)/例会
- 2月20日(月)/例会
- 2月27日(月)/夜間例会

- 3月5日(月)/例会、理事会
- 3月12日(月)/例会
- 3月19日(月)/例会
- 3月26日(月)/夜間例会

■会務報告……………渡辺正一会長

- 悪天候の中ご苦労様です。いつまで続くのかこの雪、天に叫びかけた自然には勝てない。風邪の引く時期でもありますので、手洗い、うがいを忘れず致して、健康管理は自分でしましょう。

■幹事報告……………伊藤優市幹事

- 2月27日夜間例会ですが会場を変更しまして、レストラン ミュー様で開催致します。当日の出席確認の案内をネームプレートに配布致しました。準備の都合が御座いますので、2月22日(水)までに伊藤幹事にご連絡下さい。宜しくお願い致します。
- 美深ロータリークラブより例会案内、並びに会報が届いております。資料台に置いて有りますので、ご観覧下さい。

■次年度報告……………泉谷 勇次年度幹事

- 今週の15日、次年度の役員会を当会場で午後6時からとなっております。後ほどご案内致しますが、出席義務者の方は宜しくお願い申し上げます。
- 次年度の理事会を2月20日例会終了後、当会場で行いますので、理事者予定者の出席をお願い申し上げます。
- 来年のロータリー手帳の申込みの案内が来ております。締切りが間近ですので、来週の例会の20日までに私の方にお申込み下さい。

■委員会報告

- プログラム委員会……………山本俊一委員長
本日汐川会員に国際奉仕月間のお話をして頂きます。また、次週2月20日には、土別翔雲高校の校長の前田様に卓話をお願いしておりますので、宜しくお願い致します。

■卓 話……………汐川泰晴国際奉仕委員長

「今年度の世界理解月間について」

国際ロータリー理事会が指定したこの意義ある2月を踏まえて、この月間中、各クラブにおいて世界平和に不可欠な理解と親善を深めるプログラムを作り実践して頂きたいと要請されております。今年度、国際奉仕委員会の事業目標に掲げさせて頂いております、2月に実施されます「世界理解月間」に向けて、国際奉仕に関わる活動の状況や情報



の収集を図り、国際奉仕への理解と協力を深めて頂くプログラムを、例会を通じて何らかの形で実施をして参りたいと計画を致しておりましたが、なかなか良い思案が浮かばずいろいろと悩んだ末、まず、世界の現状とそれに伴う世界のロータリアンがどのような活動をしているかと言う事を中心に少しお話をさせて頂くことに致しました。

私のお話ですので、皆さんに十分理解の頂けるお話しは出来かねますが、分かる範囲内でお話しをさせて頂きます。

ロータリーの定義は「人道的奉仕を行い、あらゆる職業で高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和に寄与することを目指した、事業及び専門職業に携わる指導者が世界的に結び合った団体」であることはすでにご理解の事と存じます。

今年度、カルヤン・パネルジー R I 会長のテーマ「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」を元に、人類が皆同じ夢、同じ希望、同じ問題を分かち合っていることを理解していただきたいと呼びかけられ、その R I 会長の意向を受け、地区増田ガバナーは、地区の目標を「地域社会にロータリーを活かそう」と掲げられ、ロータリーの奉仕の第二の強調事項であります、「継続」のレベルアップを図り、きれいで安全な水の提供、疾病の予防、識字率普及、新世代のための活動といった多様な活動が展開されています。(内容につきましては、ロータリージャパンに記載された一部を引用させて頂いております。)

まず、すべての人に安全な「水」が飲めるよう日本では、水道の蛇口をひねると当たり前のようにきれいな水が出てきます。私たちは、安心して飲むことが出来る水を、トイレに流す時にも、お風呂

に入る時にも使っています。昔から、水はタダで、豊富に有るものだと思ったりしています。

また、最近では、ペットボトルの水を買って飲むことも当たり前ようになって来ました。水道の水はまずい、と言う方もおいでになりますが、それはともかく、私たちは蛇口から出る水を安心して飲むことが出来ます。

しかし、世界の中には、水を手に入れるために、遠くまで歩いていかなければならない人たちもたくさんいます。また、近くに井戸や川があっても、ヒ素など体に有害な物質が含まれていて、飲むと病気になってしまうこともあります。そういった所に住む人たちは、有害だとわかっている、それしか水がないので、その水を飲まなければなりません。国際ロータリーでは、すべての人々が安全な水を手にいれられるよう、「水」を特に重点を置く活動の一つとして、世界中のロータリアンたちが、さまざまな活動を展開しています。

井戸のない、へき地の村に井戸を掘るための資金を提供したり、学校に簡易水道を引いたり、また、雨水を溜める装置を送ったりしています。現地に行き、村の人たちと一緒に井戸掘りの作業をするロータリアンもいます。

井戸を掘っても、ヒ素などの有害物質が混じった水しか出てこない所では、物質を取り除くフィルターなどをつけ井戸を提供しています。

2500地区の「水」の取り組みでは、インドネシア・タイ・バングラデシュなどの東南アジアの国を対象に、簡易水浄化装置を寄贈したり、井戸のポンプの装置などのプロジェクトが取り組まれ、数多くの実績をあげています。

当クラブにおいても2006年に、世界社会奉仕事業の一環として、タイのナン病院に人工呼吸器寄与事業を行っております。

次に、読み書きができるように識字率の普及
日本では読み書きが出来ると言う事は当たり前のように思われておりますが、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいます。読み書きが出来なければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではありません。例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのか分かりません。

ロータリーでは、全世界のすべての人たちが、読み書きできるよう、識字率が向上するように、様々な活動をしています。発展途上国のへき地の村に学校を建てたり、教科書や鉛筆、ノートなどを送ったりしています。

文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字の理解できない人がたくさんいます。母親が読み書きができるようになりますと、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くことも出来るようになります。ロータリーでは成人女性に対する教育も支援しています。

オーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がCLEという言語教育法を開発しました。

CLEというのは、例えば、子どもたちが画用紙からお面を作ったり、人形を作ったり簡単な工作をしながら文字を教えていきます。成人の女性なら料理や裁縫、手芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、作業をしながら文字をも学んでいきます。

楽しいこと、実益に結び付くような事と共に文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。又、費用も少なく、短い期間で学ぶことが出来ます。

多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。

2500地区の教育問題では、識字率の向上プログラムCLEという語学力集中研修講座の取り組みがされており、その成果をインドネシアで発揮しようと、北スマトラ地区、ジャカルタ近郊、ジョクジャカルタ近郊の3箇所で、3歳から7歳までの子どもたち1000人を対象にプロジェクトが取り組まれております。

続いて、ポリオ撲滅に向けて

ロータリーが創立100周年を迎えるまでにポリオの撲滅を実現しようと、国際ロータリーでは2002に、新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」を展開しました。この時点で、ポリオは99%撲滅したと言われていましたが、残りの1%は、紛争地帯やへき地など、ワクチンを投与するのに困難な地域が多く、これ

まで以上に多くの資金を必要としておりました。2007年、国際ロータリーは、ビル・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ撲滅に必要とされる2億ドルを投入することを発表しました。ビル・ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになりました。2009年ビル・ゲイツ財団は、国際ロータリーに対して、さらに2億5,500万ドルを寄与。国際ロータリーではこれを受けて、2012年までにさらに1億ドル、2007年にスタートしたものと合わせて2億ドルの資金を集める事を表明しました。世界のロータリアンは、「ロータリー2億ドルのチャレンジ」と称し、ポリオ撲滅のための資金集めをして、全ての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

世界中の様々な地域に、ロータリークラブがあり、それぞれの地域で、ロータリアンたちが様々な形で、国際奉仕活動が展開されています。

活動の一端をお話しさせていただきましたが、今なお世界には、貧困や飢餓、紛争や内戦、環境破壊などの脅威によって生命が危険にさらされている人々や、多くの尊い生命を一瞬にして奪い、生活の基盤を破壊し、社会に深刻な打撃を及ぼす災害が相次いでいることに、胸を痛めずにはられません。

最後に、ロータリー定義を初めに申し上げましたが、世界における善意と平和に寄与するためには、当然財団の国際社会での奉仕活動を、さらに強化する為の資金面の援助が大変重要になってまいります。

本年は、山口財団委員長さんには、大変ご苦勞をお掛けしております。当クラブでは、数年前から「毎年あなたも100ドルを」「ワンコインの慈愛寄付」「ポールハリスフェロー」等への加入と努力をしております。ビル・ゲイツ財団のような大きな金額ではありませんが、財団への理解と協力をし、世界平和、人類の幸福実現のために、継続のレベルを高め、ロータリーの夢を追い続けて参りたいと思います。
